

令和4年度 卒業証書授与式 式辞

唐沢川の桜の蕾もほころび始め、今年もまた旅立ちの春が巡ってきました。今、271名の若者たちが、この学び舎から、それぞれの未来へ飛び立とうとしています。この門出にあたり、本校ゆかりの御来賓の皆様方、並びに保護者の皆様方の御臨席を賜り、埼玉県立深谷商業高等学校の栄えある第75回卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな喜びであり、心から御礼申し上げます。

はじめに、保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。早朝からのお弁当作り、登下校の送り迎え、病気や怪我の時の看病、「おかえり」「ただいま」という、これまでの当たり前が終わろうとしています。子供の成長に目を細める時もあれば、家族で衝突し、言うことを聞かない子供に腹を立て、悩み、苦しめたこともあったのではないのでしょうか。18年間の子育て、本当にお疲れ様でした。今日は、保護者の皆様の卒業式でもあります。これまでの御労苦に深甚の敬意を表したいと存じます。そして、本校を信頼して、大切なお子様を預けていただき、誠にありがとうございました。

さて、ただ今、271名の卒業生の皆さんに卒業証書を授与いたしました。入学以来の努力が実を結び、ここに所定の課程を修め、めでたく卒業の栄誉を得た皆さんに、心からお祝いを申し上げます。当たり前のように制服を着て深商に登校し、当たり前のように授業を受け、当たり前のように仲間と語らう、そんな当たり前の日常も、今日が最後となりました。

3年前の新入生と教職員だけの入学式で、皆さんの入学を許可した前校長の 峰 稔浩 先生は、式辞の中で「新しい仲間との高校生活では、相手を思いやる心、相手を気遣い、支え合う気持ちを持って、良いライバル関係を築いて欲しい」という話をされました。人への思いやりは、他の人を幸せにするだけでなく、自らも幸せにします。皆さんがこの教えを守り、人間性豊かな人として成長し、深商で培った仲間との友情を一生の宝としくれるものと確信をしています。

入学式の後には、休校、そして家庭学習と、憧れの深商に入学した皆さんの日々は異例づくめ、文化祭や体育祭など行事の多くが中止や延期、内容変更となり、修学旅行も行き先や時期の変更を余儀なくされました。皆さんがイメージしていた高校生活とは、あまりにも懸け離れ、不安や焦り、また、やり場のない葛藤を抱えたこともあったかもしれません。しかし、この混沌とした時代の転換点で、高校生という特別な時間を過ごした皆さんは、新しい時代づくりの一翼を担う世代であることは、間違いありません。皆さんが頑張ってきたことを、深商の先生方はよく知っています。私もこの2年間、いろいろな場面で真摯に取り組む姿を見てきました。だからどうか、変化が激しい時代に、高校生として三年間やりきった自分を、褒めてあげてください。横を見て、隣の友人を讃えてあげてください。仲間と一緒に深商で学んだ3年間を、誇りに思ってください。

私たちは今、世界がこれまで当たり前とか、常識と思っていたものが壊れ、暮らし方や働き方、社会の在り方そのものが、劇的に変化する時代の入り口に立っています。これまでの転換期には、渋沢栄一のように志ある多くの若者が立ち上がり、海外に学び、日本の発展に大きく貢献してきました。当時は、欧米社会など倣うべきモデルがありましたが、これからの未来にモデルになるものはありません。未来を創り出す、その原動力はいつの時代も若者たち、つまり皆さんです。何かを創造するために必要なもの、それは「チャレンジ精神」です。どうか勇気を持って、一步を踏み出してください。

そして、人生は選択の連続です。皆さんは高校卒業後の進路を、沢山の選択肢の中から1つ選んだはずですが。何かを選ぶ時には、それが正しい選択なのかどうか迷い悩むものですが、どんな選択をしたかということよりも、その選択が正しかったという生き方をすることが、大切だと思います。船の進路を決めるのは、潮の流れではなく風でもありません。帆の向きです。行き先を決めるのは、自分の意志でどの方向に帆を向けるかです。皆さんは「自分の人生の主人公」であり、世界でただ一人の自分の人生を作っていく責任者でもあります。

これからそんな厳しい社会に船出をする皆さんに、私から少しお願いがあります。

それは、自分を大切にしたい、ということです。これには、いくつかの意味や考え方がありますが、基本になるのは自分の気持ち、こころ、感情に従うこと。まず、自分の好きなこと、やりたいことをやってみる。自分の夢を追ってみる。つまり挑戦です。実際は、小さな一歩を辛抱強く続けることでしかないので、言葉の響きほど、かっこよくありません。しかし、それでも自分の好きなことに挑戦する人生を送って欲しいと思っています。仮に何かに挑戦して失敗した時でも、頑張った自分を褒めてください。失敗は大きな学びであり、次へのステップになります。失敗を恐れず、挑戦することで自分らしく生きて欲しいと思っています。何年か先、あの時は失敗しちゃったよ、と笑い話ができるのか、あの時挑戦しとけばよかった、と後悔するのか、できるかできないかではなく、やるかやらないかです。もし自分の心が傷ついたなら、その傷を癒やしてあげてください自分に優しくしてあげてください。立ち止まっても、一歩も二歩も退いても結構です。無理して頑張らないで、耐えられないなと思えば、いつか逃げ出してもいいでしょう。自分の命を大切にしてください。自分の心の痛みを素直に向き合うことのできる人は、他人の心の痛みもわかり優しくできます。

「自分を大切にすること」、「自分らしく挑戦すること」、この2つを心に留めて、明日を拓いていただければ願います。

以上が、私から皆さんに贈る、最後のエールです。皆さんとは2年間の付き合いでした。ここにいる271名は、いつも私の自慢であり、誇りでした。本当にありがとう。胸を張って、堂々と、それぞれの未来へ羽ばたいてください。

結びに、「商暁」にも書いた渋沢栄一翁の言葉「逆境の時こそ、力を尽くす」、これを改めて伝え、式辞といたします。

令和5年3月10日

埼玉県立深谷商業高等学校 校長 西木 成男